

農業を知る、食を知ることは、全ての人に大切
それができるのが農業体験

ふれあい体験農園みたむら

代表 三田村雅人さん
住所 夕張郡由仁町岩内2857
URL <http://www1.ocn.ne.jp/~m-tomato/>
連絡先 電話・FAX:0123-87-3636
E-mail eco-farm@topaz.ocn.ne.jp



三田村雅人さん

1982(昭和57)年に就農し、1998年に収穫体験農園を開設、2002年から「由仁ふれあい農業小学校」を開校し、多くの体験者を受け入れる。モットーは「畑と食卓をつなぐ」こと、農業体験を通して自然の仕組み、農業の役割、いのちの大切さを学ぶこと。

- 受入可能人数 1~200名
- 受入時期 通年
- 所要時間 3時間~1日
- 体験料 メニューによって変わります (お問い合わせください)

体験内容

- 稲作…田植え、稲刈り、脱穀、精米
- 畑作(じゃがいも)…播種、移植、草取り、収穫
- 野菜(えだまめ、だいこん、かぼちゃ、トマト、とうもろこし など)…播種、移植、草取り、摘果、整枝、収穫
- その他…農業機械の実演、堆肥づくり、自然観察、出前授業

提供している食育の分野

- 食を楽しむ、味覚を育てる
- 食べ物の大切さを知り、自然の恵みに感謝する
- 食べ物の作られる過程などを理解する
- 食を通して環境について考える など



* 農業体験モデル例 *

中学校2年生

- 実施日 2011年6月15日(水)
- 体験参加者 生徒150名
教員8名
- 受け入れ者 農園スタッフ10名
- 所要時間 10:00~14:30

事前に行うこと

- 教員と十分に打合せを行い、体験の目的にあったスケジュールの組み立て
- 出前授業を1時間実施。スライドやパネルを使って農作業を説明し、生徒からの質問に対応 (質問は事前に考え、出前授業の前に伝えておくとい)
- 生徒は、15名ずつのグループに編成

実施内容

10:00

バスで到着。荷物を置いてクラスごとに整列
スタートのあいさつ、スタッフ紹介
トイレの場所、注意事項などを伝えてグループに分かれる

10:20

グループごとに生徒とスタッフが自己紹介
スタッフ、サポーターが作業手順をくわしく説明する

10:40

グループごとに、種まき移植の作業をスタート
畝たて、肥料まき、マルチなど生徒にそれぞれ役割を分担して行う

12:00

各自持参した弁当で昼食
食べ終わった生徒は、周囲の自然観察(水路の生き物)やトラクター見学など、自由時間。生徒の興味・関心があることを自由に探求

活動の特徴 1

かけがえのない農業の価値を伝えたい

由仁町で水稻、畑作に取り組む三田村さん。農業に対する思いを農産物のパッケージに載せるほか、インターネットで発信するなど、さまざまな形で伝えてきました。しかしそれでは伝えきれない農業の価値や役割、旬のおいしさ、自然の恵み、いのちの大切さなどを理解してもらうにはどうしたらいいか。たどりついたのが、大人も子どもも参加できる約半年の農業体験、「由仁ふれあい農業小学校」でした。

数年後、学校の卒業生からの要望に応え、小・中学生の修学旅行や総合学習での受け入れも開始し、地域の農業者と勉強会などを重ねながら、体験受け入れの体制を整えてきました。

活動の特徴 2

農業者としての誇りをもって

三田村さんが心がけていることに、「無いものねだりをしない」「ある物のすばらしさを伝える」「都会の価値に迎合しない」という信念があります。農業者としての生活に誇りをもち、それを伝えることが農業体験を行う目的であり、だからこそ忙しくても受け入れを続けていける、といいます。

また農業体験は、春の種まき、夏の草取り、秋の収穫と継続して行うことが理想的ですが、限られた授業時間ではそうもいきません。三田村さんは、田植えや種まきだけを体験した子どもたちに、その後の生育状況を知らせる「ファームレター」を送ったり、収穫した米や野菜を学校に届けたり、一度の体験だけで終わらない、つながりを大切にしています。

なっとく！
食育！

「農業体験サポート倶楽部」のメンバーから

田植えに来た子どもたちは、最初はキャーキャー騒いで泥に足を入れるのも嫌がっていますが、だんだん一生懸命に作業に集中していきます。その後、三田村さんの手紙を読んだり、できたお米をもらったりして、それまでは炊飯器の中だけにあったお米に、長い時間とたくさんの人の手がかかっていることが分かります。普段の食を見つめ直すきっかけになると思います。

受け入れ側が用意するもの

種まき、移植に使う道具、資材(種は1人分ずつ袋に入れ、種の名前を書いておく)、昼食場所のブルーシート、立ち入り禁止場所の表示など

体験者が用意するもの(服装・持ち物など)

汚れてもいい服装(ジャージ上下)、帽子、軍手、タオル、汚れてもいい靴(スニーカー、長靴など)を別に1足、筆記用具、メモ帳、弁当、飲み物

13:00

ハウス内でトマトの摘花
ラディッシュの摘み取りなどをしながら
作物の観察
(スケッチやデジカメで撮影)

14:30

使った道具などを洗い、後片付け
グループごとに感想を発表し
農園からまとめのあいさつ

人手不足は、 独自のサポート体制で解決！

体験希望は農作業の忙しい時期に集中しますが、三田村さんは「由仁ふれあい農業小学校」の卒業生を中心に、当日や出前授業などを手伝ってくれる「農業体験サポート倶楽部」を作り、メンバーと一緒に受け入れを実施しています。農業の価値を伝えたい、という思いを共有したメンバーは現在約30名に達しています。

活動の様子は <http://www.facebook.com/nougyosupport> をご覧ください。

体験後の交流

- ふれあい体験農園みたむらでは、体験した児童・生徒1人ずつに「ファームレター」を郵送。作物が育っている様子を、写真を交えて紹介しています。
- 秋の収穫時には、できた農作物の一部を学校に届けています。

1人ずつ苗を入れた
容器を腰に
田植えをスタート



泥だらけに
なるのも
貴重な経験



野菜の種と、
移植する苗を
事前に
準備しておく



自分で植える種、苗を持って畑に移動



大人数の体験では、グループごとに分かれて作業を説明

point!